

2007年5月29日

北海道知事

高橋 はるみ 殿

旧夕張鹿ノ谷倶楽部（夕張鹿鳴館）の保存に関する要望書

社団法人 日本建築学会北海道支部

支部長 繪内 正道

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の活動につきましては、多大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

貴職におかれましては財政再建団体になった夕張市の施策を思慮されているところと存じます。

さて、旧夕張鹿ノ谷倶楽部（夕張鹿鳴館、夕張市鹿の谷2丁目）は北海道の炭鉱施設および近代和風住宅の遺構として全国的に貴重な建物であります。本学会支部は本建物が今後どのように保存と活用がなされていくかを危惧しております。

旧夕張鹿ノ谷倶楽部は、大正2年、北海道炭礦汽船株式会社が北海道支社を当地に移転するために賓客の接待および幹部職員の厚生施設として現在の場所に建てられました。この時、周辺に職員社宅、合宿所なども建ち並び一帯は閑静な住区を形成しました。

本建物は、次の点で極めて希少でかつまた優れた建築であるといえます。

その第一は、北海道の基幹産業であった炭鉱施設の希少な遺構であり、とくに炭鉱会社の倶楽部としては全国でも稀に見る大規模な建築であります。本館に隣接して第一別館と第二別館が配置され、とくに第二別館は旧第一号職員社宅（大正2年）の遺構であることから大正期の炭鉱住宅としても貴重であります。いうまでもなく炭鉱事業は北海道の開発を促進させてきましたが、その炭鉱遺産は次々に取り壊されているのが現状であり、本建物は将来に伝えるべきかけがえない北海道遺産といえます。

第二の特徴は、明治以降に普及した伝統的和風建築に新進の洋風意匠を巧みに組み合わせた近代和風建築である点です。建物の配置は大規模な和風住宅（二条城二の丸御殿、桂離宮）に見られる雁行形であり、居室の意匠も書院造りを主体にしながら随所に洋風の応接室や大食堂を配し、さらには昭和29年の行幸の際に使われた御座所と寝室がほぼ当時のままに残されています。本建物は、北海道ばかりではなくわが国における近代和風建築の中で極めて貴重な建物といえます。

貴職におかれましては、この貴重な建物の持つ高い文化的意義と歴史的価値についてあらためてご理解いただき、このかけがえのない文化遺産が後世に継承されますよう、格別のご支援を賜りたくお願いを申し上げます次第です。

なお、本会支部は、この建物の歴史的価値を学術的に評価し並びに保存のための修理計画および活用に向けた整備計画の立案に関して、協力させていただく所存であることを申し添えます。

敬白

2007年5月29日

加森観光株式会社

加森 公人 殿

旧夕張鹿ノ谷倶楽部（夕張鹿鳴館）の保存に関する要望書

社団法人 日本建築学会北海道支部

支部長 繪内 正道

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の活動につきましては、多大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

貴殿におかれましては夕張市の観光施設の運営委託を「夕張リゾート」を通して受けられ、4月から営業を再開なされました。

さて、上記施設の一つである旧夕張鹿ノ谷倶楽部（夕張鹿鳴館、夕張市鹿の谷2丁目）は北海道の炭鉱施設および近代和風住宅の遺構として全国的に貴重な建物であり、本学会支部は本建物が今後どのように保存と活用がなされていくかを危惧しております。

旧夕張鹿ノ谷倶楽部は、大正2年、北海道炭礦汽船株式会社が北海道支社を当地に移転するために賓客の接待および幹部職員の厚生施設として現在の場所に建てられました。この時、周辺に職員社宅、合宿所なども建ち並び一帯は閑静な住区を形成しました。

本建物は、次の点で極めて希少でかつまた優れた建築であるといえます。

その第一は、北海道の基幹産業であった炭鉱施設の希少な遺構であり、とくに炭鉱会社の倶楽部としては全国でも稀に見る大規模な建築であります。本館に隣接して第一別館と第二別館が配置され、とくに第二別館は旧第一号職員社宅（大正2年）の遺構であることから大正期の炭鉱住宅としても貴重であります。いうまでもなく炭鉱事業は北海道の開発を促進させてきましたが、その炭鉱遺産は次々に取り壊されているのが現状であり、本建物は将来に伝えるべきかけがえのない北海道遺産といえます。

第二の特徴は、明治以降に普及した伝統的和風建築に新進の洋風意匠を巧みに組み合わせた近代和風建築である点です。建物の配置は大規模な和風住宅（二条城二の丸御殿、桂離宮）に見られる雁行形であり、居室の意匠も書院造りを主体にしながら随所に洋風の応接室や大食堂を配し、さらには昭和29年の行幸の際に使われた御座所と寝室がほぼ当時のままに残されています。本建物は、北海道ばかりではなくわが国における近代和風建築の中で極めて貴重な建物といえます。

貴殿におかれましては、この貴重な建物の持つ高い文化的意義と歴史的価値についてあらためてご理解いただき、このかけがえのない文化遺産が後世に継承されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願いを申し上げます次第です。

敬白

2007年5月30日

夕張市長
藤倉 肇 殿

旧夕張鹿ノ谷倶楽部（夕張鹿鳴館）の保存に関する要望書

社団法人 日本建築学会北海道支部
支部長 繪内 正道

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の活動につきましては、多大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

貴職におかれましては貴市の新たな施策を思慮されているところと拝聞しております。

さて、旧夕張鹿ノ谷倶楽部（夕張鹿鳴館、夕張市鹿の谷2丁目）は北海道の炭鉱施設および近代和風住宅の遺構として全国的に貴重な建物であります。本学会支部は本建物が今後どのように保存と活用がなされていくかを危惧しております。

旧夕張鹿ノ谷倶楽部は、大正2年、北海道炭礦汽船株式会社が北海道支社を当地に移転するために賓客の接待および幹部職員の厚生施設として現在の場所に建てられました。この時、周辺に職員社宅、合宿所なども建ち並び一帯は閑静な住区を形成しました。

本建物は、次の点で極めて希少でかつまた優れた建築であるといえます。

その第一は、北海道の基幹産業であった炭鉱施設の希少な遺構であり、とくに炭鉱会社の倶楽部としては全国でも稀に見る大規模な建築であります。本館に隣接して第一別館と第二別館が配置され、とくに第二別館は旧第一号職員社宅（大正2年）の遺構であることから大正期の炭鉱住宅としても貴重であります。いうまでもなく炭鉱事業は北海道の開発を促進させてきましたが、その炭鉱遺産は次々に取り壊されているのが現状であり、本建物は将来に伝えるべきかけがえのない北海道遺産といえます。

第二の特徴は、明治以降に普及した伝統的和風建築に新進の洋風意匠を巧みに組み合わせた近代和風建築である点です。建物の配置は大規模な和風住宅（二条城二の丸御殿、桂離宮）に見られる雁行形であり、居室の意匠も書院造りを主体にしながら随所に洋風の応接室や大食堂を配し、さらには昭和29年の行幸の際に使われた御座所と寝室がほぼ当時のままに残されています。本建物は、北海道ばかりではなくわが国における近代和風建築の中で極めて貴重な建物といえます。

貴職におかれましては、この貴重な建物の持つ高い文化的意義と歴史的価値についてあらため

てご理解いただき、このかけがえのない文化遺産が後世に継承されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願いを申し上げます次第です。

なお、本会支部は、この建物の歴史的価値を学術的に評価し並びに保存のための修理計画および活用に向けた整備計画の立案に関して、協力させていただく所存であることを申し添えます。

敬白

旧夕張鹿ノ谷倶楽部（夕張鹿鳴館）についての見解

日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会

主査 水野 信太郎

1．建築の概要

旧夕張鹿ノ谷倶楽部は、大正2年、北海道炭礦汽船（以下、北炭）北海道支店が夕張へ移転するのに伴い、現在地（夕張市鹿の谷2丁目）に創建された。建築の目的は、炭鉱が山間僻遠の地にあることから賓客の接待および宿泊に供するためであった。この時、鹿の谷には支店事務所のほか幹部職員の社宅および社員倶楽部、診療所、派出所、テニスコートが建設され、付近一帯は夕張で最も閑静な地区として整えられた。

現在、倶楽部の建物は広大な庭園に囲まれ、その構成は3つの棟からなっている。中央に本館が建ち、その西に第一別館、東に第二別館が並び、本館と別館の間は廊下で連結している。本館は創建時の倶楽部棟であり、第一別館は大正5年8月に三井男爵一行が来訪するために増築され、第二別館は第一号職員社宅として倶楽部と同時（大正2年）に建てられたのである。

大正2年に支店の移転工事全般を請け負ったのは、篠原要次郎である。その請負総額は4万8,000円であり、その内倶楽部の建築費は3,177円90銭、第一号職員社宅は3,105円であった。

その後、大きな増改築がなされたのは、昭和11年に陸軍大演習において勅使が来訪した際と昭和29年に天皇・皇后両陛下がご宿泊された時である。

なお、建物の現況は、軒先の垂木や屋根の亜鉛鍍鉄板、土台廻りなどが数箇所にあたって破損しこのまま放置すると大掛かりな復旧工事を要する甚大な被害が予見される。

2．炭鉱施設としての重要性

炭鉱事業は北海道における近代の基幹産業であり、運炭のために鉄道と港湾を建設し、炭鉱につながる鉄道沿線の要所に都市を形成していった。炭鉱開発は人々の移動と物資の流通を促しながら村落と市街地を生み出す契機をつくり、北海道民の生活にうおいをもたらしてきた。しかし、今日、ほとんどの炭鉱が閉山し多くの炭鉱施設は取り壊されているが実情である。

このような状況にありながら、旧鹿ノ谷倶楽部は広大な敷地に本館と第一号職員社宅を含む別館が一体になって現存する全国でも希少な炭鉱会社の接待施設であり、かつまた大規模な炭鉱施設の遺構でもある。

本館は北海道における炭鉱会社の倶楽部の中で最大規模であるばかりか賓客のために贅を尽くした随一の建物であり、わが国の炭鉱関連の建築でみれば三井港倶楽部（九州大牟田市）と双壁の接待施設といえる。また、第二別館の第一号職員社宅は、木造平家の一戸建であり、最高峰の炭鉱住宅に位置づけられる。北炭の社宅で最も床面積が広く、和風住宅に西洋間の応接室を備えている。大正期の北炭幹部の職員社宅は、すべてこの第一号社宅を基本としながら順次職制に従って規模を縮小し仕様を簡略化して建てられたのである。

旧鹿ノ谷倶楽部は山間に形成された北海道の炭鉱社会とその建築を知る手掛かりになる貴重な施設であることから、将来に伝えるべきかけがえのない北海道遺産（「空知の炭鉱関連施設と生活文化」に包含）であり、さらにわが国を代表する近代化遺産としての歴史的価値がある。

3．近代和風建築としての重要性

本建物は、伝統的和風住宅の形態を基本としながら新進の洋風意匠を巧みに調和させた大正期

を代表する近代和風建築である。

建物の配置は広い芝生に面して雁行形に並び、京都の二条城二の丸御殿や桂離宮に見られる大規模な和風住宅の形式になっている。正面玄関の南につながる十五畳間は、最も格式の高い和室であり、座敷飾り（床、違い棚、平書院）を備えて蟻壁を廻らし、十畳間境の欄間には鳳凰をあしらった透かし彫りが施されている。玄関ホール of 東に隣接する応接室と寝室は西洋間であり、ホールと応接室には壁を挟んでマントルピースを備えている。また、玄関西側の大食堂は洋風意匠で統一され、北側中央の壁に大理石製のマントルピースを設けている。本館の南側には昭和29年の行幸の際に使用した西洋間の御座所と寝室があり、その奥に数寄屋造りの洗面所・脱衣室・便所および檜による浴室が続いている。本館の西に位置する浴室と脱衣室にはスタンドグラスが収められている。浴室の天井の明かり取りはアールヌーヴォー調であり、脱衣室の壁の丸窓は薄紅色を基調にした梅を表現している。

旧鹿ノ谷倶楽部は、北海道のみならず全国の大規模な近代和風建築として極めて貴重な遺構といえる。

4．請負人・篠原要次郎の足跡

大正2年の支店移設に関わる建築工事一式を請け負ったのは、篠原要次郎（元治元年（1864年）～昭和15年、新潟県間瀬の出身）である。彼の業績を示す請負工事は、本建物と北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎、明治21年、札幌市中央区、国指定重要文化財）の火災復旧工事といえる。北海道庁本庁舎の火災は、明治42年1月12日に炎上して11時間以上も燃え続け、煉瓦壁を残して烏有に帰したと記録される。篠原によるその復旧工事は、明治43年6月に着工し、同44年7月に竣工している。篠原が北炭の夕張移転工事を手がけた時期は、北海道庁本庁舎の工事を完成させた2年後であり、請負人として北海道で最も信頼を得たころと推察される。

なお、間瀬出身の大工は、明治初期から函館および札幌・釧路・旭川などで和風・洋風建築を問わず優れた建物を手がけている。とくに旧鹿ノ谷倶楽部は篠原要次郎が間瀬大工の一人として北海道において活躍した証の一つであり、その建築技術の高さを示す重要な建物といえる。

